

令和4年度 第2回 帯広市都市計画審議会 議事概要

日 時：令和5年2月28日（火曜日）13時30分～15時00分
場 所：帯広市役所 10階第6会議室
出席委員：岩本会長、國枝副会長、石井委員、大林委員、河西委員、神田委員、椎名委員、長沢委員、西本委員、平井委員、紅葉委員、吉田委員（以上12名）、小林部会長
事務局：和田都市環境部長、篠原都市建築室長、
（都市政策課）岡田都市政策課長、中島都市計画係長、堀田主任補、三浦主任補
傍聴者等：報道関係者 2名
配布資料：会議次第、座席表、大空地区地区別構想（案）、参考資料

【次第】

- 1 開 会
- 2 部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議 題
大空地区地区別構想（案）について
- 5 閉 会

【議事概要】

○議題 大空地区地区別構想（案）について

事務局より大空地区地区別構想（案）に基づき説明。
小林部会長より配布資料について説明。

○委員からの主な意見

- ・地域のイベントなどの活動が盛り上がると、地域の活力になってくると感じる。人が行きかうような取り組みが一つの成功事例になり、展開していくのではという期待が非常に感じられる。
- ・大空地区地区別構想（案）の8ページ「6 実現に向けて」が一番大事であると思った。住民と事業者団体、行政が連携することが最も重要な部分である。より愛着を持って住み続けたいと思うまちづくりが、これから必要なことだと思う。昔の賑わいのある時のようなまちづくりができる可能性のある地域だと思っている。
- ・都市部、中山間地域等も含めて濃淡はあれど、人口減少は避けて通れない道だと思う。人口減少と今後のまちづくりをどういうふうと考えていくのか、また、長期的に人口減少をどう捉えるかについて、小林部会長に伺いたい。

（小林部会長）

- ・単に少子化や人口減少を嘆くのではなく、うまく経済が循環していくシステムを作るということをここ10年ほどで考えていくべきことであると思う。
- ・交流するにも何かのきっかけを作らなければならないが、高齢化している現状だからこそ大空団地にしっかりとした機能を持たせ、楽しみや交流などに繋がっていくような視点が必要であると思う。

- ・今建っているものが空き家になっていく可能性があるが、それを何とかしなければならない。帯広市の出先ということではなく、民間の組織でもよいと思うが、大空を統括する組織があれば、作戦が立てられるのではないか。また、空き家に出先の企業を誘致するなど、二人、三人の雇用が生まれるのであれば、空き地になるより無償で貸してもいいと思うのではないか。そういったことを思い切ってやっていかないと、これから寂しくなるのでは。
- ・市営住宅や道営住宅で孤独死が増えているため、戸建ての若い世代が見守り隊のように共存できる体制が大空にあると、いいモデルにはなるのではと思うが、小林部会長の意見を伺いたい。

(小林部会長)

- ・通学路に高齢者が出てきて、おはよう、おかえりというように挨拶や会話をしていると、このおばあちゃんはこの家のどこに寝ているかを子供たちは知ることができた。こういった世代間のコミュニケーションが、阪神淡路大震災での死者が少なかった理由の一つである。一朝一夕にはできないが、若い世代と高齢者の交わり方の例であると思う。
また、資料にまち保育というのを書いた。子供が小学校に入るまでの間、親は不安であるが、経験豊かなおばあちゃんたちに協力してもらうなど、まち全体で保育する場所や環境、助け合いができるよう工夫する必要がある。
- ・若い方たちが住み始め、世代を次に繋げていき、持続性のあるまちを作っていくことが大事である。立派な街であっても若い人が全くいなくなってしまうのは非常に大きな問題である。
- ・子育て世代の人たちにある程度使いやすいようなまちであると、同時に高齢者にとっても使いやすいまちになるという、ユニバーサルな話に繋がってくると思う。
- ・この地区別構想は、一つのまちづくりの仕掛けを作っていた。地区別構想を使いこなすために、市も含めて様々な部門の連携やソフトの部分も大事であるというところは、この審議会の中でも重要な指摘である。